

テーマ：ロイター短観（2013年12月）
発表日：2013年12月9日（月）
～製造業は3年2ヶ月ぶり、非製造業は6年8ヶ月ぶりの高水準～
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 高橋 大輝
TEL：03-5221-4524

		製造業DI											非製造業DI							
		素材型					加工型						不動産・建設	卸売	小売	通信・情報サービス	運輸・電力	その他サービス		
		繊維・紙パ	化学製品	石油・窯業	鉄鋼・非鉄		食品	金属・機械	電機	輸送用機器	精密機器、その他									
2012	7月	▲2	0	▲9	10	▲15	0	▲3	0	0	▲13	5	0	8	▲9	23	13	16	▲8	16
	8月	▲4	▲5	▲9	0	0	▲12	▲4	0	▲4	▲10	0	9	8	0	28	▲5	14	▲4	17
	9月	▲5	▲6	▲9	▲13	0	11	▲5	25	▲4	▲13	6	▲7	7	▲9	12	▲5	20	▲4	26
	10月	▲17	▲13	▲20	▲17	0	0	▲20	0	▲18	▲27	▲11	▲25	7	▲9	15	0	10	▲4	25
	11月	▲19	▲15	▲18	▲19	0	▲13	▲21	20	▲32	▲28	▲24	0	1	0	6	0	10	▲20	14
	12月	▲18	▲14	▲17	▲19	0	▲11	▲20	20	▲22	▲34	▲17	▲9	5	10	5	▲5	14	▲13	18
2013	1月	▲17	▲15	▲30	▲9	0	▲22	▲18	20	▲20	▲25	▲19	▲9	10	9	18	5	29	▲16	25
	2月	▲13	▲15	▲36	▲4	▲15	▲13	▲11	20	▲19	▲26	6	0	8	9	25	▲5	7	▲17	29
	3月	▲11	▲14	▲30	▲10	▲16	0	▲10	20	0	▲28	▲6	0	12	0	20	14	33	▲21	30
	4月	▲4	▲12	▲18	▲9	▲15	▲11	3	▲20	21	▲14	14	0	12	17	20	19	19	▲15	23
	5月	7	0	▲30	9	25	▲10	13	0	22	10	7	9	19	18	32	8	40	▲4	33
	6月	15	12	▲20	20	12	27	17	43	18	6	21	17	20	25	18	4	40	4	26
	7月	13	4	▲20	5	15	20	16	14	16	15	29	7	18	21	18	12	26	▲4	32
	8月	16	20	0	28	14	30	14	29	8	15	21	9	23	27	33	4	38	▲5	37
	9月	12	12	▲10	19	15	17	12	14	13	3	27	9	20	36	19	▲4	42	0	28
	10月	12	15	0	15	15	27	10	0	8	7	32	▲9	18	25	32	▲13	50	0	19
	11月	14	22	0	25	14	44	10	▲17	4	11	18	17	22	29	35	▲5	42	8	22
	12月	17	15	▲22	25	0	40	17	▲15	11	22	32	17	25	29	38	10	47	0	32
3ヵ月後見通し		22	21	▲11	30	14	40	22	0	23	26	19	34	33	34	56	35	42	9	32

（出所）ロイター「ロイター短観」

○製造業DI：2010年10月以来の高水準。加工型が牽引

11月ロイター短観（調査期間11月22日～12月4日）の製造業DIは+17（11月：+14）と前月から改善し、2010年10月以来の高水準となった。内訳をみると、加工型が+17（11月：+10）と改善し、製造業の景況感を牽引した。コメントをみると「為替円安の効果や、消費増税前の需要が具現化してきた」（金属・機械）、「車載品関係の受注が安定し、省エネ関係の受注も増加した」（電機）といったものがみられた。足元では、再び円安傾向での推移となっており、加工型の景況感改善の後押しになっているようだ。また、輸送用機器は前月差+14ptと大幅改善しており、国内新車販売において駆け込み需要が顕在化し始めていることも改善に寄与しているとみられる。一方で、素材型は+15（11月：+22）と3ヶ月ぶりに悪化した。内訳をみると、悪化したのは繊維・紙パ、石油・窯業、鉄鋼・非鉄である。「円安による輸入原材料の高騰で仕入れ価格がアップしている」（紙・パ）、「ナフサの価格上昇が収益を圧迫している」（化学）などの声が挙げられており、円安の進展などに伴うコスト高によって収益が圧迫されていることが景況感の悪化に繋がっているようだ。

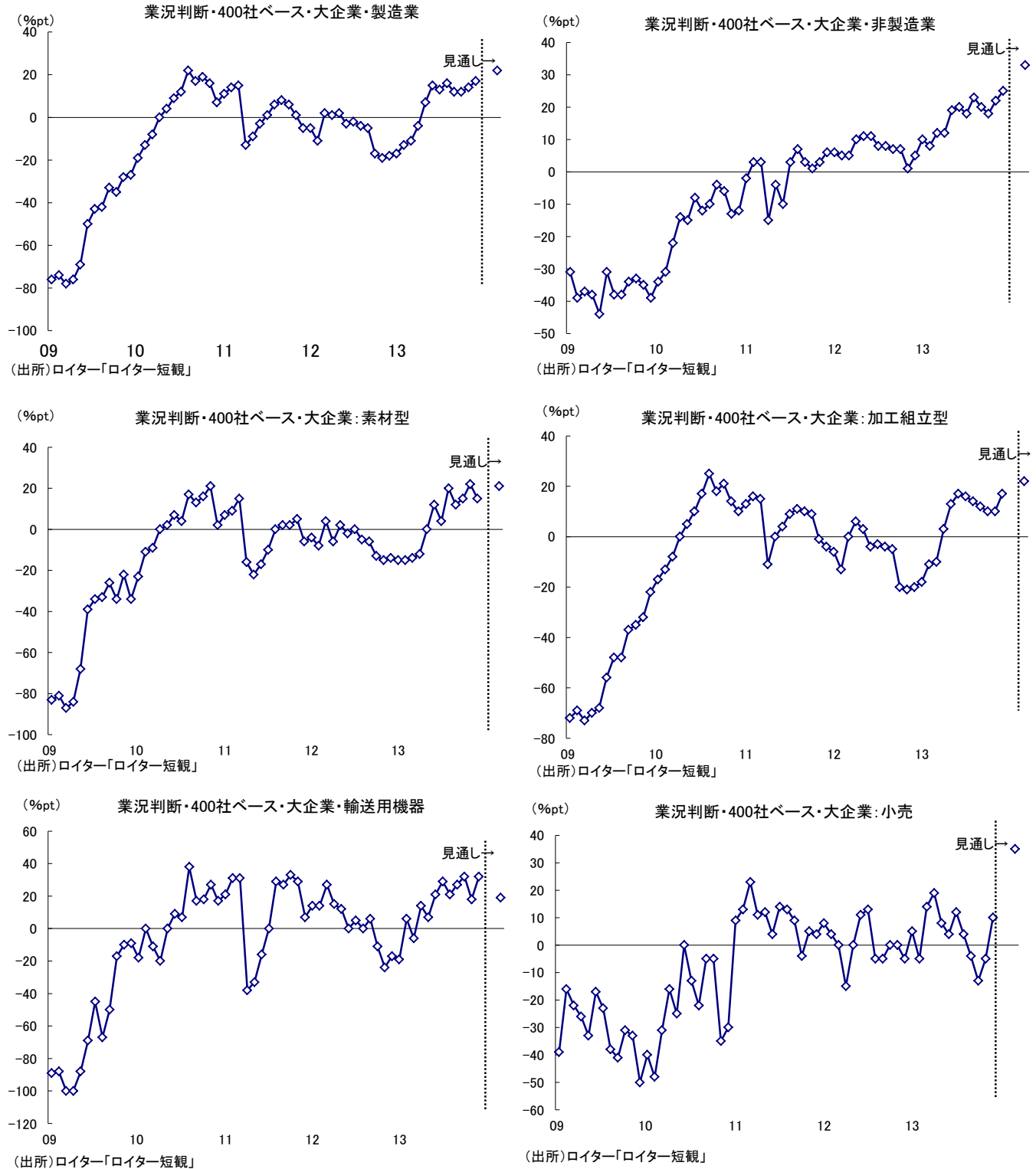
3ヶ月後の見通しは+22（11月実績：+17）と一段の改善が見込まれている。今後も、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要や海外経済の回復などを背景とした輸出の増加により、製造業の景況感が高水準の推移が続こう。

○非製造業DI：2007年4月以来の高水準。小売が大幅改善

非製造業DIは+25（11月：+22）と改善した。これは2007年4月以来の水準である。また、全ての業種がマイナス圏を脱しており、内容も良好だ。内訳をみると、卸・小売、その他サービス、通信・情報サービスが改善となった。特に小売は、7月をピークに悪化が続いていたが、ここ2ヶ月で景況感は大きく改善

した。小売の好調については「新車販売が好調」、「消費増税に伴う建築需要で売上が増加している」といった声があり、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の顕在化が景況感を押し上げている可能性が示唆される。また、公共事業の増加や震災復興、消費税率引き上げ前の駆け込み受注などを背景に不動産・建設も高い水準を維持している。

3ヶ月後の見通しは+33（11月実績：+25）と改善が予想されている。卸・小売では+56（11月実績+38）と大幅改善が見込まれており、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要への期待は大きい。非製造業の景況感は、駆け込み需要の顕在化などを背景に高水準が続くだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。